

第 38 回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：平成 30 年 10 月 5 日（金）10:00～13:00
2. 開催場所：TKP ガーデンシティーPREMIUM 仙台西口
ソララプラザ 8F 会議室 8D
3. 出席者：渡邊・阿部（東北大学）、室屋（大阪大学）、高木・山本（東芝 ESS）、久宗・杉野（日本原電）、林（東京電力 HD）、赤峰（関西電力）、石原^代（三菱重工）、長瀬（日立 GE）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、内田・埴（JAEA） 【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について、了承された。

(2) 第 35 回定例研究会について

大橋委員（財務担当）より、資料に基づき第 35 回定例研究会の案について説明がなされた。

開催日時は平成 31 年 3 月 8 日（金）13:30～17:00、場所はオルガノ(株)本社とし、基調テーマについては、今後企画担当と調整し決定することとなった。当日は、午前に第 39 回運営小委員会を開催するとともに、定例研究会に先立ち 13:00 より第 17 回全体会議を開催する予定である。

(3) 次期運営小委員会委員選挙に係る選挙管理委員会の設置について

埴委員（庶務担当）より、資料に基づき次期運営小委員会委員選挙に係る選挙管理委員会の設置等の説明がなされた。

選挙管理委員会設置及び候補者受付から投票終了までの選挙スケジュールについて了承された。本件に関連し、渡邊部会長より、部会のより合理的・効率的な運営を目指し、中長期的視点での運営小委の運営に係る意見交換の場を設定したい旨の意見があった。

(4) 2019 年 春の年会 企画セッションについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき 2019 年 春の年会 企画セッションについて説明がなされた。

PWR は再稼動が進んでおり再稼動後の PWR プラントの水化学をテーマとしたセッションについて近い将来に提案したい旨、また水化学ロードマップについてはフォローアップ WG での作業が残っているため 2019 年の春の年会から秋の大会にスライドさせる旨の提案がなされ、了承された。

水化学ロードマップを対象に企画セッションを開催するに当たっては他部会との共催も考えられ、その際には共催する目的を明確にしておく必要があるこ

と、今後3～5年を見据えた企画セッションのテーマ方針を企画担当で検討する必要がある旨コメントがなされた。

(5) 第16回全体会議の資料について

埴委員（庶務担当）より、資料に基づき第16回全体会議の資料の説明がなされ、承認された。

(6) 水化学部会賞細則の新設及び運営小委員会細則の改定について

埴委員（庶務担当）より、資料に基づき水化学部会賞細則の新設及び運営小委員会細則の改定について、また部会賞の選考に係るガイドライン（案）について説明がなされた。

水化学部会賞細則の新設および水化学部会運営小委員会細則の改定について了承されるとともに、水化学部会賞細則は全体会議での承認事項として扱うこととした。部会賞に係るガイドライン（案）は引き続き検討を進めるが、講演賞の選考では選考委員の出席者数を定めずとも選考委員が会場における採点者を指名可能とすれば良いこと（選考委員の出席努力は前提）、講演セッションについては「原則として」水化学部会に該当する（コード503-01）に対象を絞って運用を開始する等のコメントがなされた。

(7) AWC2021の日本開催に係る検討WGの設置について

久宗副部長より、資料に基づきAWC2021の日本開催に係る検討WGの設置等について説明がなされた。

開催場所は東北大学片平キャンパス、開催期間は2021年9月末～10月始（原子力学会 秋の大会と重ならないよう配慮）、組織委員会は設置しない、サイトツアーは計画しないことが了承された。欧米からの積極的な参加は募らないが、AWCの活動を知らしめる意味でNPCのメンバーにはアナウンスすることとした。プロシーディングスについては、会議の質を確保する観点から重要である旨のコメントがなされ、その要否については今後実行委員会で議論することとした。

(8) 定例研究会の地方開催の継続可否について

久宗副部長より、資料に基づき定例研究会の地方開催の継続可否について説明がなされた。

地方開催については、デメリットは無いこと、地方での開催に対して出席者数への特段の影響は認められないことから、今後も継続することです承された。

(9) 教育委員会 CPD プログラムへの対応について

埴委員（庶務担当）より、資料に基づき教育委員会 CPD プログラムへの対応について説明がなされた。

水化学部会の活動では、定例研究会と夏期セミナーが同プログラムに該当し、前者については次回（第 35 回）以降について登録すること、既に終了した夏期セミナーについては同プログラムへの参加希望者を確認し希望者を教育委員会に連絡することで了承された。

(10) 2018 年度部会報（目次案）について

長瀬委員（広報・編集担当）より、資料に基づき 2018 年度部会報（目次案）について説明がなされた。

特別寄稿については、「水素注入技術報告書の概要について」とすること、年度内の発行を目標とすることが了承された。

(11) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

河村委員（水化学ロードマップフォローアップ WG 委員）より、資料に基づき水化学ロードマップのフォローアップ検討の状況等が報告された。

部会のサーバーでファイルを共有して執筆を進めていること、次回のワーキンググループは 11 月 20 日を予定していること、ロードマップの完成時期については当初予定から変更が無いこと等が報告された。

(12) 水化学ハンドブックの改訂について

室屋委員（水化学ハンドブック改訂 WG 委員）より、資料に基づき水化学ハンドブックの改訂状況等が報告された。

(13) 日本原子力学会誌 60 周年記念号への執筆について

河村委員より、日本原子力学会誌 60 周年記念号について、将来構想やロードマップへの取り組み、水化学におけるシビアアクシデント対応など新たな課題への取り組みについて記述されている旨の報告がなされた。

(14) 2018 年三部会合同夏期セミナーの概要報告

山本委員（企画担当）より、資料に基づき 2018 年三部会合同夏期セミナーの参加者構成、アンケート結果等について報告がなされた。

(15) シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会について

内田顧問より、資料に基づきシビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会の活動状況について報告がなされた。

同委員会の活動と連携の深い「燃料デブリ」研究専門委員会が当初の予定期間で活動を終了したこと、2019 年春の年会の企画セッションで若手中心の発表を予定していること等についても報告がなされた。

(16) その他

a.NPC2018 の関連報告について

渡邊部会長より、資料に基づき NPC2018 のコアメンバーミーティングにおける議事概要が報告された。次回は韓国での開催が決定するとともに、次々の開催地としてカナダが立候補の意思を表明した。

b.AWC2019 の韓国開催について

高木副部会長より、資料に基づき AWC2019（韓国開催）のスケジュール等が報告された。場所はソウル市、開催期間は 2019 年 9 月 24 日～27 日である。

以 上